

本電在米、仏、伊、白、独、蘭各大公使ニ郵送アリタシ
註 同電ハ徳川臨時代理大使十二月十八日發電ニシテ関税會議
ノ經過通報方稟請セシモノナリ

事項四 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件

一四三 一月二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我兵營ニ收容中ノ安福派領袖特赦問題ニ関シ

報告ノ件

第二号

(一月三日接受)

兵營禍首特赦ノ件ニ付テハ本使過日梁總理ニ会见ノ節ニモ
至急実行方ヲ懇願シタルニ全部一度ニハ困難ナル事情アル
ニ付幾回カニ分チ行フ管ニ付御了承アリタシト答ヘ又三十
一日張作霖本使来訪ノ節ニモ自分ハ当初ヨリ全部特赦ヲ主
張セルモ曹錕ハ是ヲ承知セズ。右ハ直隸派ニ於テ主トシテ
王郅隆ノ特赦後ノ行動ヲ怖ルル為ナラント考ヘラルルニ付
兩三日中ニ歸奉ノ途次天津ニ於テ省長曹錕ニモ充分勧誘シ
特赦ニ賛成セシムル考ナリト述ベタリ。尚ホ段芝貴等六名
(段以下ノ軍人ノミニテ兵營禍首ハ段ノミナリ)ハ一月一日
大總統令ニ依リ其ノ逮捕ヲ免セラレタルヲ以テ段ハ直チニ
本使ヲ来訪シ今日迄ノ保護ニ関シ日本政府ノ好意ヲ深謝シ
同日兵營ヲ退出スヘキ旨述ヘタルニ付館員ヲシテ劉金標ノ
宅ニ送ラシメタリ、同人ハ不日天津ノ自宅ニ歸ル管ナリ。

四 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一四三 一四四

天津ヘ郵送セリ

一四四 一月二十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我兵營ニ收容中ノ安福派領袖ノ特赦乃至脱出

ニ付朱深及姚震ノ西田ニ対シ為セル談話内容

報告ノ件

第三九号(極秘) (一月二十二日接受)

最近兵營ニ在ル朱深、姚震ノ需ニ依リ西田会见シタル処右
兩人ハ残留セル七人ヲ代表セリト前言シ既ニ一年半モ御厄
介ニ成レルガ時世ハ大分変化シ来リ殊ニ奉直ノ争鬭モ愈々
遠カラズ実現セラルヘキ形勢ニ近付キツツアルガ現時ノ状
況ニテハ奉天派ガ(段モ呉ニハ反对セリ)南方孫文等ト十分
ナル握手ヲ為サザル限り確實ニ直隸派ヲ圧迫スルコト不可
能ト認メラルル処張作霖ト孫文トハ代表ノ交換アリ聯絡ノ
意アルモ孫ハ未タ張ヲ信用セズ張ノ代表ニ対シ万事段祺瑞
ヲ経テ話シアリタシト申出デタルガ張モ段ヲ仲介トスルニ
アラザレバ孫文等ヲ信ジ難キ事情アリ然ルニ前述段派督軍

ハ軍人ニシテ頭腦簡單反対派ノ中傷離間ニ欺カレ易ク到底右三派ノ聯絡ヲ確実ニスルコト不可能ナルニ付此ノ際 (一) 本使ヨリ梁總理等ニ話シ差当リ七名ノ特赦不可能ナラバ退出ノ了解ヲ得ルコト、(二) 右一ニシテ出来ザレバ自分等三人丈ケナリトモ日本側ノ然ルヘキ援助ヲ得テ窃カニ脱出スルコト (三) 右尚ホ不可能ナラハ自分等自ラノ危険ヲ以テ脱出スルニ依リ支那政府ニ対スル通告ヲ十日内外猶予セラルコトニ関シ特ニ本使ノ配慮ヲ煩ハシタキ旨嘆願シ且徐樹錚ノ脱出ニ依リ一時日本側ニ多少ノ迷惑ヲ掛ケタルコトハ遺憾ナルモ今ヤ徐問題モ全ク世人ヨリ忘れラレ日貨排斥ノ声ノ如キ最近復タ多少直隸派及学生団一部ノ教唆ニ依リ起リツツアルモ徐樹錚問題トハ何等ノ關係ナキノミナラズ時局モ當時トハ余程変化シ殊ニ自分等ノ脱出其ノ事ハ小事ナルモ今後ノ政局ニ於テ及バズナガラ日本ノ為ニモ尽シ度ク張作霖モ現時ノ儘ニテ愈々奉直争鬭トナラバ北京附近ノ奉天軍ハ一時引揚ケノ外ナカルベク若シ万一ニモ斯クシテ張作霖失脚シ吳佩孚ノ如キ者ヲシテ北京政府ノ実権ヲ掌握セシメンカ統一ハ勿論不可能ナルモ北京政府丈ケハ数年或ハ十年位迄ハ其ノ勢力ノ下ニ置カルルコトナキヤモ計リ難ク

一四五 一月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

安福派領袖ノ脱出ハ嚴ニ警戒スベキ旨訓令ノ

件

第六六号 極秘

貴電第三九号ニ関シ追テ御意見稟申ヲ俟ツベキモ当方トシテハ彼等カ支那政府ノ特赦ナクシテ日本側ノ援助又ハ黙認ヲ以テ日本兵營ヲ脱出スルガ如キコトアリテハ仮令内実支那側ノ了解アリタリトスルモ輿論ハ日本ニ責ヲ負ハスベク我對支那局面ニ勘カラズ惡影響ヲ及ボスハ勿論ノ義ニ付此際彼等ニ於テ不心得ノ行動ナキ様充分御配慮アリ度キ考ハ從來ト異ナル処ナキニ付右御含置アリタシ

一四六 十月一日 在天津吉田總領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

兵營ヲ脱出セル王郅隆天津ニ於テ館員ニ對シ

脱出ノ經過及脱出公表ノ意向ニ付語リタル件

第一六五号

(十月二日接受)

北京大倉支店長ノ本官ニ内報スル処ニ依レハ同人ハ王郅隆天津留守宅ヨリノ招キニ依リ今一日朝来津セル処王郅隆、

四 日本公使館ニ於テ安福派領袖庇護一件 一四五 一四六

日本ニ取りテモ對支關係上頗ル不得策ト認メラルルニ付此点モ御考慮ヲ願度キ旨申出デタル趣ナリ、依テ本使ヨリハ七名ノ長ク兵營内ニ滞在セラルルコトハ素ヨリ十分ナル同情ヲ有スルニ付今後共支那政府ノ特赦又ハ脱出了解ニ就テハ十分尽力スヘキ考ナルモ右ノ事ナクシテ (一) 事ハ目下ノ時機ニ於テ到底取計難キ旨ヲ回答セシメ置キタルニ同人等ハ本使ノ所謂時機トハ自分等ニテ判明シ難キモ自分等ノ觀察ニ依レバ梁士詒ハ旧年末ノミナラズ長ク總理ノ留任ニ極力努力スヘキモ自分等ノ脱出ハ梁丈ケノ了解ニテハ勿論不可 (梁愈辭職ノ已ムヲ得ザルトキニハ了解ヲ承諾スヘシ) ニシテ大總統ノ了解ヲモ要スル次第ナルガ腰弱ノ大總統ハ自身辭職実行ノ時ニアラザレバ直隸派ニ氣兼ねシテ承諾セザルベク斯クテハ自分等ノ退出モ殆ド無期限トナル次第ニテ忍ビ難ク尠クモ華府會議終了後ハ是非何トカシテ脱出致シタキニ付本使ニ再考ヲ煩ハシタシト再度嘆願セル趣ナリ就テハ本使ハ篤ト考慮ノ上適當ノ時機ニ卑見開陳スヘキモ一応電報ス

天津、上海、広東、漢口及奉天へ郵送セリ

(奉天中継一月二十二日後九、二〇)

曾毓雋、梁鴻志ノ三名今未明北京公使館兵營ヲ脱出シ天津へ来レル次第ヲ当地ニ於テ始メテ承知セリトノ趣ニ付直チニ館員ヲシテ莊璟珂 (前駐日公使代理) ニ就キ曾毓雋ノ消息ヲ尋ネシムルト共ニ他面王郅隆ヲ伊太利租界ノ邸ニ尋ネシメタル処莊ハ全然本件ヲ承知セザルモノノ如ク終ニ何等得ル処ナカリシモ王ハ折柄楼上ニ長子王寶鑫大公报記者翁某 (王ノ秘書) ト何事カ密議中ナリシモ直ニ館員ヲ引見シ実ハ昨夜曾梁兩人ヨリ脱出ノ計画打チ明ケラレ自分ハ最近漸ク運動ノ効ヲ奏シ曹錕、吳佩孚ノ了解ヲモ得居レルニ今兩人ノ脱出アリテハ自分今後ノ方針ニ再ヒ蹉跌ヲ生スヘク考ヘタルニ依リ終ニ彼等ト同行脱出ヲ決心シ公使隊長ヘノ置手紙ヲ朱深ニ託シテ今朝五時自動車ニテ (運転手ハ曾ノ親戚) 脱出セリ

時払曉ニシテ哨兵モ自分等車中ノ人顔ヲ辨別セサリシモノト考ヘラル自分ハ黃村ニ潜行シ九時過キ当地ニ著シ既ニ伊太利領事ノ了解ヲ得巡捕派遣ヲ請ヒ置キタリ (巡捕ハ既ニ門ニ守衛ス) 今般ノ脱出ニ付テハ多年御厄介ニナリタル公使、司令官ニ對シテハ勿論直接隊長ニ迷惑ヲ掛クルニ忍ビサル次第ナルモ前陳ノ事情ニテ決行シタル次第第二付何レ明

日長子寶鑫ヲ以テ總領事並司令官ニ御託致スベク其上ニテ成ルヘク貴國側ニ迷惑ヲ掛ケザルガ為自分帰津ノ事ハ新聞ニ發表スル意思ナルガ近來中国ノ官場ハ以前ト異リ黎總統現内閣(吳ノ内閣ニシテ段派一人モナシ)ノ下ニテ行ハレタル今回ノ脱走ハ前回程ノ物議ヲ惹起セザルカト思考ス曾梁兩人ハ(別ニ自動車ニテ曾ノ弟運転ス)仏蘭西租界某仏商宅ニ入りタル筈ナルモ其ノ所在ヲ承知セズ(此上ノ御迷惑ヲ避クル為殊更日租界ニ家アルモ之ヲ避ケタリ)兩人ハ或ハ浙江盧永祥ノ許ニ赴クヤモ知レズ自分ガ既ニ曹吳並司法部其他ノ了解ヲ得居リタル証拠書類ハ態ト兵営内ニ遺シ置キタルニ付公使館ニテモ是ニ由リ了解(脱)思考スト語レリ、依テ本官ハ王ニ対シ新聞ニ公表ノ義ハ我方ニ迷惑ヲ掛ケザルノ趣意ニ出ヅトセバ我公使館側ノ意見ヲモ篤ト承知シタル上之ヲ為スモ遅カラズ發表ハ一兩日見合ハス様尚三人今後ノ行動ニ付テハ當方ト聯絡ヲ保ツベキコトヲ不取敢申聞ケ置キタリ更ニ曾梁兩人ノ踪跡探查中ナリ
北京上海広東漢口及奉天ヘ転電セリ

一四八 十月三日 在天津吉田總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王郅隆脱出ノ前後ノ事情ニ付報告ノ件

第一六七号

(十月四日接受)

往電第一六五号ニ関シ莊璟珂(曾毓雋ノ義弟)及王郅隆ノ長子王寶鑫、中島通訳官ノ談ヲ綜合スルニ王郅隆ハ同日夜來合セ居タル家族ト共ニ兵営ヲ脱出セルモノノ如ク払曉脱出ト云ヘルハ北京ニ一夜ヲ過セル事實ヲ蔽ハンガ為ナリト云フ、曾毓雋ハ今尚仏租界内ニ隠レ刺客、捕吏等ノ窺フ無キヤ將又彼ニ対シ當館ガ窮追奪回ノ手段ニ出デザルヤ等頻リニ身辺ノ危険ヲ氣遣ヒ未ダニ其ノ居所ヲモ明カニセザルヲ以テ王同様当地ニ潜伏ノ意ト推セラル本件ニ邦人ノ關係スル者無キヤト王、曾兩人ニ推問セルニ其所言ニ付想像スレバ全ク本件ハ王、曾一味ノ手ニ計畫セラレタルガ如ク曾毓雋ノ弟某ハ脱出ノ目的遂行ノ為特ニ上海ニ赴キ自動車ノ買入並運転ノ技術ヲ修得セリト云ヘバ其計畫ハ久シキ以前ヨリ工夫セラレタルモノト考ヘラル北京大倉支店長増永ノ如キモ全ク別用ニテ数日前來天津ニ滞在セルモノニテ王ヨリ其北京脱出後直ニ來談ヲ求メ王ノ長子ト共ニ本官並司令官ノ許ニ至リ脱出ノ事情ヲ報告セン事ヲ求メタルニ増永ハ

一四七 十月一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王郅隆等三名ノ脱出ヲ外交部ニ通知シタル旨
報告ノ件

第六三三三号 至急(極秘)

(十月三日接受)

十月一日午後四時星村隊長本使ヲ來訪シ兵営内ニ収容中ノ曾毓雋、王郅隆、梁鴻志ノ三名天津ニ到着シタル旨午後二時頃鈴木司令官ヨリ電話アリタルニ付直ニ捜査シタルニ三人ノ各室ニハ鍵ヲ掛ケアリ開キタルニ居ラズ王ヨリ同隊長ニ宛テ無断失踪スル故公使ニ宜シク御転達ヲ煩シタキ旨ノ書面遺シアリ察スルニ梁鴻志ハ三十日午後十二時頃迄ハ球突場ニ居リシニ付一日午前二時頃親戚ノ辞去ニ紛レ脱走シタルモノト認ムル旨報告アリタリ依テ他日ノ誤解ヲ防ク為外交部ニ対シテハ一日午後西田ヲシテ熊秘書ニ何レ公文ヲ以テ通知スベキモ曾、王、梁ノ三名ハ本日見當ラズ捜査シタルニ脱走セシコト判明セルニ付不取敢通知スト簡單ニ通告セシメ置ケリ外交部宛公文ハ一日附ニテ送付スル筈
天津ニ転電セリ

承諾セズ却テ其脱出ノ不可ナリシ事ヲ力説セリトテ王ハ大ニ憤リ居ル様ノ次第ニテ増永トモ何等關係無キガ如シ
在支公使及奉天總領事ヘ転電セリ

一四九 十月三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王郅隆等脱出ニ関スル現地紙ノ記事ニ付報告

ノ件

第六三五号 至急

(十月四日接受)

往電第六三三三号ニ関シ当地漢字新聞中益世報、京報、北京日報、申報ノミ逃走ニ関シ記載スル所アリタルガ筆法概シテ穩當ニシテ我方ニ対シ殆ト攻撃的ノ態度ナク寧ロ支那側各方面ノ援助ニ対シ疑惑ヲ挾ミ居レリ益世報ハ曰ク彼等カ兵営ニ逃入セシ以來屢々政変ニ依リ反対方面及地方官等ノ注意弛緩スルニ至リタルガ王郅隆ハ曩ニ巨額ノ運動費ヲ投シテ某方面ニ運動シ某部ノ諒解ヲ得タルモ他ニ關係アリテ断行スルニ至ラザリシガ結局某方面ヨリ直接管轄各機關ヲシテ三名共脱走ニ援助セシメタルモノナルヘシ政府ハ日本公使ノ照會ニ接シ地方官憲ニ対シ彼等ノ逮捕ヲ命シタルモ右ハ(脱)居ル冷笑ヲ加ヘ、申報曰ク他ノ消息ニ依レバ兵

管内ニ於ケル彼等ノ費用ハ保護費ヲ除キ炭代食料等ニテ毎年二万余元ヲ要スル処日本將校ハ其苦境ニ同情シ変装脱出ヲ許シタル為メ該党首領ヨリ送金ヲ請ヒ日本將校ニ謝礼シ外交各機關ト連絡ノ上脱走セリ云々、惟フニ前記某方面ハ保定ヲ、某部ハ陸軍部ヲ各機關ハ歩軍統領京師警察ヲ指スモノナルベク更ニ彼等ノ脱逃ニ関シテハ以上各機關就中歩軍統領ニ対シテハ相当ノ運動費ヲ払ヒ事前ニ打合済ニシテ新聞社方面ニモ亦相当運動シタルモノノ如シ

一五〇 十月三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

王鄧隆等脱出ヲ外交部ニ公文ヲ以テ通告ノ件

第六三七号

(十月四日接受)

往電第六三三三号末段ニ関シ外交部ニ対シテハ一日附書翰ヲ以テ王、梁、曾ノ三名見当ヲサルニ付搜索シタル処無斷退出シタル事判明セル趣隊長ヨリ報告ヲ得タルニ付不取敢館員ヲシテ其旨貴部ニ電話セシメ置キタルモ右念ノ為通告スル旨極メテ簡單ニ通知シ置キタリ

係セシムルハ益々公使館側ノ迷惑ヲ深カラシムヘケレハナリ

天津ニ入りテ以来暫ク踪跡ヲ明ラカニセザリシハ親戚故友等ノ来訪ニ依ル混雜ヲ避ケムガ為ナリ在營中種々ノ待遇ヲ受ケタル上本件ニ依リ更ニ公使並ニ軍隊ニ迷惑ヲ掛ケタルハ深く遺憾トスル所ナルモ事情可然御了察アリタシト申居レリ

猶本件發生後京津間新聞ハ概シテ之ヲ問題トセズ寧ロ冷淡ニ取扱ヒ居レリ徐樹錚脱出當時ト政状ヲ異ニスル点モ有ルヘク又王鄧隆辺ヨリ各方面ニ運動シテ諒解ヲ附ケ居ルモノカト察セラル

一五二 十月十二日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

王鄧隆ガ日本渡航希望申出ニ付中国政府ノ王

ニ対スル取扱振電報方訓令ノ件

第五一九号

王鄧隆ハ近々本邦ニ渡来シ暫ク静養シ度キ希望ヲ有シ此点予メ当省ノ諒解ヲ得度旨大倉組河野久太郎宛依頼シ来リタル趣ニテ十月十二日河野芳沢局長ヲ来訪シ右王ノ希望ヲ伝

一五一 十月十日 在天津吉田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

曾毓雋ガ語リタル脱出事情報告ノ件

第一七二号

(十月十一日接受)

昨九日夜曾毓雋本官ニ面会ヲ求メタルニ付莊環珂宅ニ於テ会谈セリ同人ハ先ヅ日本トノ關係ヲ説キ日支大局ノ利害ニ顧ミ両国親善ノ止ムベカラザルヲ感ジ在職中自然日本人ト幾多ノ交渉ヲ生ズルニ至レルガ折柄政変ニ会シ一旦ハ仏国公使館ニ入ラント思ヒシモ徐樹錚ノ勸告ニ従ヒ日本兵營ニ身ヲ託スルコトナレリ然ルニ其後外交部ト日本公使館トノ間ニ文書ノ交換トナリ余等ノミ固陋ノ内ニ在ル次第ニ非ザルモ猶公使館監視ノ下ニ置カルルニ至レルハ密カニ心外トスル処而カモ問ハルベキ罪アルニ非ザレバ政府当局ニ釈放ヲ請フ如キハ我意ニ非ズ兵營脱出ノ事ハ夙ニ決行ノ筈ナリシモ王鄧隆カ釈放運動ヲナシ同人關係事業ノ利害上無事ノ釈放ヲ便トセシヲ以テ暫ク其運動ノ成否ヲ待ツコトセラルモ急ニ運ビ難キヲ見遂ニ脱出ニ此処一ヶ月来昼夜計画実行ニ苦心シタリ然レ共日本人ハ何人ニモ相談セズ日本公使館ノ監督ノ下ニアル余等カ脱出スルニ当リ日本人ヲシテ関

ヘタルニ対シ芳沢ハ王ハ我兵營ヲ脱出シテ日尚浅ク從ツテ支那政府ノ之ニ対スル取扱振不明ニシテ少クモ同政府ニ於テ王等ヲ赦免シタルモノト見倣シ得ル形トナル迄ハ其本邦渡来ヲ承諾スル能ハザル旨答ヘタリ付テハ同人等脱出ニ関スル貴官通牒ニ対シ支那政府ヨリ何等申越アリタリヤ竝同政府ノ本人等ニ対スル其後ノ取扱振折返シ電報アリタシ

一五三 十月十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

十一日西田ヲシテ外交次長ヲ往訪セシメ我兵營殘留者ノ特赦又ハ放免方ヲ非公式ニ申込マシメタルニ対シ外交部ノ抗議の回答ニ接シタル件

第六五四号 至急 (十月十七日接受)

貴電第五一九号ニ関シ

往電第六三三五号ノ如ク脱出者ハ予メ各方面ニ運動シ既ニ相當ノ了解ヲ得タルモノナルベキハ王鄧隆ノ書置等ニ見ルモ逆睹ニ難カラズ從テ爾来外交部其他政府筋ヨリ当館ニ対シテモ何等申出ナキノミナラズ言論界モ一斉ニ口ヲ絨シ益世報ノ如キ寧ロ彼等及殘留者ニ迄同情ノ態度ヲ仄カシ赦免ヲ

懲遷シ爾来本件ハ有邪無邪ノ間ニ葬ラレツツアリタリ然ルニ十日残留者ニ同情ヲ有スル政府筋有力者等ヨリ本使ニ対シ姚震等ト親交アル法律館總裁江庸等ノ政府筋ハ既ニ赦免運動ニ奔走シ司法官側ヨリモ政府ニ赦免ノ稟申ニ対シ十二日ノ國務會議ニ於テ附議セラルル迄ニ進捗シタルニ付テハ本使ヨリ外交総長ニ赦免方口添ヘヲ得バ目的達成上頗ル好都合ナルニ付是非共右様尽力アリタシトノ懇願アリタルノミナラズ姚震ヨリモ自分ヨリモ自分ノ旧同僚タル王總理、羅財政総長等モ赦免運動ニ幹旋ノ勞ヲ執リ呉ルル由ニテ是非同様ノ口添ヘヲ与ヘラレタキ旨再三願出アリ旁十一日西田ヲシテ外交次長ヲ往訪セシメ兵營收容中ノ残留者四名ニ対シ最近彼等ノ旧同僚等有力者ヨリ特赦方ヲ呈請シ政府ニ於テ現ニ詮議中ナル由且新聞紙ニモ右様記事散見セラルルガ曩ニ段芝貴等ノ如キ戦争ニ從事シタル人物スラ既ニ特赦セラレタルコトアリ事實政府ニ於テ右特赦詮議中ナラバ願総長ヨリモ好意的ニ幹旋方取計ハレタク若シ特赦不可能ナラハ復辟當時康有為カ米国公使館ニ收容セラレ其後同公使館ト外交部トノ了解ノ下ニ同人ヲ放免セシメタル先例モアルニ付何レトモ了解ヲ得バ彼等ノ為幸福ナルベシ右ハ曾テ

致セル抗議ハ総長カ呉佩孚一派ノ追究ヲ恐ルル為ノ表面的ノ文句ニ過ギズ偶々徐樹錚成効ノ影響ヲ受ケ折角有力者ノ特赦運動モ遺憾ナガラ失敗ニ帰セリ悪シカラス了承アリ度ク尚ホ外交部来信ニ対スル回答モ前例ニ依リ簡單ノモノニテ可ナルヘシ云々ト内話セリ外交部ニ回答ヲ俟チテ委曲郵送ス

一五四 十月二十七日

在福州林總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日中兩國ノ協力ニ関スル徐樹錚ノ内話報告ノ件

第九七号

(十月二十八日接受)

十月二十七日閩報館長岩山カ徐樹錚ヲ訪問シ聴取シタル談話ノ一節ニ左ノ語句アリ参考迄ニ電報ス

自分ハ北京ノ日本公使館脱出後三度日本ニ赴キタルガ日本政府ハ自分カ政治犯人ナルニ拘ラズ之ヲ捕ヘテ北京政府ニ引渡サント企テタリ然レドモ自分ハ日本ヲ恨ムガ如キコトナシ日本ニハ多数ノ友人ヲ有スルノミナラズ東亞ノ大局ハ日本ト支那ト提携スルニ非ズンバ之ヲ維持スルヲ得ズ且黄色人種ノ發展ヲ期待スルヲ得ズ自分ハ飽迄日本ト提携スル

靳總理、顧外交総長ニ一再申述ヘタル次第モアリ当館トシテモ既ニ二年余モ收容シ俘虜ニアラザル謂ハバ客人ノ收容ハ中々手数ニシテ又々脱出等ノ事アラバ貴我共ニ面白カラズ此際何トカ一段落ヲ告ゲタキ考ニテ非公式ニ相談スル次第ナルニ付此旨公使ノ希望トシテ総長ニ伝ヘラレタキ旨申込マシメタリ

十二日國務會議ニ於テ果シテ特赦問題議案ニ上リタルガ偶々福州方面徐樹錚ノ活躍アリ頻リニ李軍ノ不利伝ヘラレタル折柄高交通、孫内務総長等呉佩孚一派ノ反対アリ高農商総長モ赦免ノ意見ヲ述ヘタル由ナルガ遂ニ通過ヲ見ルニ至ラズ翌十三日外交総長公文ヲ以テ今回王郅隆等三名同時脱出ニ付守備隊長ノ之ヲ知ラザル謂ハレナキニ付質問ヲ提出竝同隊長ノ不注意ニ対シ相当処分アリタク現ニ徐樹錚ハ福建延平地方ニ於テ拳兵ノ事實ニモ鑑ミ残留者四名ニ対シテモ政府トノ關係重大ナルニ付彼等ノ身柄ヲ引渡サレタキ旨申越シ更ニ同日附覽書ヲ以テ外交部ヨリ貴館ヨリ特赦ノ申出アリタル如キハ政府ノ奇怪トスル所ナリ其ノ引渡未了ノ間ハ嚴重監守シ脱出セシメサランコトヲ請フ旨申越アリタリ右来文ニ対シ熊秘書ハ密カニ本使ヲ來訪シ本件外交部ノ

積ナリ云々

公使ニ転電セリ

一五五 十一月十二日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

朱深脱出ニ関シ報告ノ件

第七一一号 (至急)

(十一月十二日接受)

十二日午前十一時半森副官(星村隊長帰國中) 本使ヲ來訪シ予テ收容中ノ朱深本日見当ラザルニ付取調べタル処姚震ノ許ニ朱ヨリ森大尉及新里中尉宛無断脱出スル事ヲ諒トセラレ度旨十一日附ノ書面アリ爰ニ脱出シタル事判明セル旨報告アリ依テ不取敢午後一時西田ヲシテ熊秘書ニ右無断脱出ノ旨ヲ電話ニテ通知セシメ且十二日附ニテ簡單ニ公文ヲ以テ外交部ニ通告シ置ケリ尚朱ハ十一日天津ニ赴キタルモノト認メラル

天津、上海、奉天へ転電セリ

一五六 十一月十三日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

朱深脱出ニ関スル中国紙報道報告ノ件

第七一四号

(十一月十三日接受)

往電第七一一号ニ関シ

当地漢字新聞中京報ノミ十三日紙面ニ安福禍首朱深昨朝走逸ト題シ日本公使例ニ依リ外交部ニ通知アリト附記シ同人ノ書遣中ニ收容中ノ保護ヲ謝シ無断脱出ノ苦衷ヲ述ヘアリ云々ト記載セルノミニテ何等意見ヲ加ヘズ前回同様外部諸新聞方面ニモ相当ノ運動アリタルモノト察セラル

一五七 十一月十七日 在天津吉田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

丁士源ノ脱出ニ関シ報告ノ件

第一九一号 (十一月十七日接受)

本官宛在支公使宛電報第一一九号

丁士源十七日午前九時来館、十六日俄ノ思立ニテ髭ヲ落シ覆面ノ冬帽子ヲ用意シ午後七時二十五分兵営ヲ脱シ予メ使用人ヲシテ購入セシメタル三等切符ヲ受取り八時十分発汽車ニテ十一時五十分当地東停車場ニ下車シタリ、右ノ次第公使館ヘ報告シ公使並隊長ニ二年間ノ御好意ヲ謝シ度ク可然ク伝達ヲ請フ旨申出タリ尚同人ハ居所定マリ次第当館ニ届出ツル筈ナリ

一五八 十一月十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

姚震等ノ脱出ニ関シ報告ノ件

第七二三号 至急 (十一月十八日接受)

十七日午前十一時過守備隊森副官(星村隊長帰朝中)ヨリ営内ニ收容中ノ姚震、姚国楨、丁士源等ハ見当ラザルニ付取調ヘタル処三名共居ラス右ハ十六日夜ヨリ十七日払曉ニ掛ケ脱出シタルモノナルヘク認メラルル旨通告アリ依テ不取敢十一時半外交部ニ右無断脱出ノ旨ヲ電話ニテ通知セシメ十七日附書面ヲ以テ簡單ニ外交部ニ通告シ置ケリ彼等ハ夫々天津ニ赴キタルモノト認メラル

天津、上海、奉天ヘ転電セリ

一五九 十一月二十七日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

朱深姚震姚国楨丁士源ノ日本兵営脱出ニ関シ

外交部トノ往復文書送付ノ件

附屬書一 十一月十二日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文第二一三号写

文第二一三号写

朱深脱出ニ付通告ノ件

二 十一月十七日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公

文第二一五号写

姚震姚国楨丁士源脱出ニ付通告ノ件

三 十一月二十一日附顧外交総長ヨリ小幡公使宛公文中字第二二六八号写

右脱出通告ニ対シ照会ノ件

四 十一月二十七日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文写

右中国側照会ニ対シ回答ノ件

機密第五三二号 (十二月二日接受)

大正十一年十一月二十七日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

朱深、姚震、姚国楨、丁士源等兵営脱出ニ関シ外交部

ト照覆ノ件

当館兵営内ニ保護中ノ朱深姚震姚国楨丁士源四名ガ前後シテ兵営脱出ノ件ニ関シテハ當時往電第七一一号及同第七二三号ヲ以テ不取敢及報告置候通外交部ニ対シ電話及公文ヲ以テ(別紙甲乙号文書写参照)夫々通告致置候処同部ヨリ十一月二十一日附ヲ以テ別紙丙号写ノ通照会致越候ニ付丁号ノ通及照覆置候条御査閱相成度尚彼等脱出ニ関シテハ既

電ノ如ク外部ノ空氣頗ル冷静ニシテ且当地新聞紙上ニモ殆ト掲載セラレズ至極穩便ニ経過致居リ候即チ今回ヲ以テ所謂安福禍首全部退去セシ次第第二有之候此段報告申進候也

(附屬書一)

(別紙甲号)

十一月十二日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文第二二三号写

朱深脱出ニ付通告ノ件

第二二三号

以書翰致啓上候陳者兼テ当公使館護衛隊兵営内ニ收容中ナリシ朱深氏本日見当ラザルニ付搜索シタル処無断退出シタルコト判明致候趣護衛隊隊長代理ヨリ報告ヲ得タルニ付不取敢館員ヲシテ電話ヲ以テ其旨貴部ニ通告セシメ置候ヘ共尚為念茲ニ及御通告候此段照会得貴意候 敬具

大正十一年十一月十二日

特命全權公使 小幡西吉

支那共和国外交総長 顧維鈞殿

(附屬書二)

(別紙乙号)

十一月十七日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文第二二五号写
姚震、姚国楨、丁士源脱出ニ付通告ノ件

第二一五号

以書翰致啓上候陳者当公使館護衛隊兵営内ニ收容中ナリシ姚震姚国楨丁士源本日見当ラザルニ付取調ベタル処同人等ハ本月十六日夜ヨリ十七日払曉迄ノ間ニ無断退去シタルモノト認メラルル趣同護衛隊長代理ヨリ報告ヲ得タルヲ以テ不取敢当館館員ヲシテ電話ヲ以テ其ノ旨貴部ニ通告セシメ置候得共尙為念茲ニ及御通告候此段照会得貴意候 敬具
大正十一年十一月十七日

特命全權公使 小幡西吉

支那共和国外交総長 顧維鈞殿

(附屬書三)

(別紙丙号)

十一月二十一日附顧外交総長ヨリ小幡公使宛公文中字第二六八号
朱深外三名脱出通告ニ対シ照会ノ件

照会中字第二六八号

外交総長顧

照会事准本月十二日

照会朱深由使館護衛隊兵営退去正核辦間復准本月十七日

照称姚震姚国楨丁士源等三人於十六日夜十七日黎明之間擅

行退去各等因査前因王郅隆等三名逃逸業由本部於上月十三日將本國政府重視此事之意並恐朱深暨姚震等四人或再有逃逸情事請將彼等交還在未交還時間應轉飭嚴加防範勿任逃逸各節照会在案乃未蒙

貴公使諒解照辦時僅月余該朱深姚震等四人又復先後逸去本國政府実深詫異査該朱深姚震等四人在

貴使館兵営即使如十月二十八日

来照所称對於彼等無權監禁拘束亦無阻止束縛彼等退去之義務然

貴使館兵営為警備嚴密之地自不能任彼等自由出入茲竟一再任彼等逃逸該兵営護衛隊長及代理護衛隊長不能不負疏于監視之責應請予以相当処分並請將該朱深姚震等四人先後逃逸時詳細情形再行查明見示相応照請

貴公使査照辦理並見復可也須至照会者

右 照 会

大日本國欽命駐華全權公使小幡

中華民國十一年十一月二十一日

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者本月十二日附貴翰ヲ以テ朱深ガ公使館

敬具

(附屬書四)

(別紙丁号)

十一月二十七日附小幡公使ヨリ顧外交総長宛公文字

朱深外三名ノ脱出ニ関スル中國側照会ニ対シ回答ノ件

以書翰致啓上候陳者当館護衛隊兵営内ニ保護中ノ朱深姚震姚国楨丁士源等前後シテ兵営ヲ脱出セシ件ニ関シ本月二十一日附中字第二六八号貴翰ヲ以テ御来照ノ趣閱悉致候本件ニ関シテハ本月十二日附第二二三号及同月十七日附第二一五号拙翰ヲ以テ及通告置タル次第ニ有之候処此ノ種事件ニ関シテハ去ル十月二十八日附第二〇四号拙翰申述べタルガ如ク是等被保護者ニ対シテハ当館兵営ニ於テ之ヲ監禁拘束スルノ地位ニ非ザルノミナラズ彼等カ自ラ退去スル場合ニ於テ之ヲ阻止又ハ束縛スルノ義務ナキハ自明ノ儀ニ有之御来示ノ如キ当館兵営ガ警備嚴密ノ地ナリヤ否ヤノ問題トハ何等關係無之該守備隊長及其ノ代理者ハ本件ニ関シ何等ノ責任ヲ負担スヘキ筋合ニ無之候尙朱深ハ十一月十一日払曉頃ニ又姚震等三名ハ前信ノ如ク十一月十六日夜ヨリ同十七日払曉迄ノ間ニ何処ヨリカ無断ニ脱出セシモノト認メラルル趣ニ有之候尙彼等脱出ニ関シテハ其ノ事實判明ト共ニ夫

々遅滞ナク先ツ電話ヲ以テ貴部ニ通告セシメタルハ既ニ御承知ノ通ニ有之候此段照覆得貴意候 敬具

大正十一年十一月二十七日

日本帝國特命全權公使 小幡西吉

支那共和国外交總長 顧維鈞殿

事項五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ關スル件

一六〇

六月十九日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

二十一箇條問題ニ關シテハ中國側ニ對シ斷乎

タル態度ヲ以テ応酬セラレ度旨訓令ノ件

附記

大正十年十月十三日閣議決定ノ一部

華府會議日本代表ニ對スル一般訓令中ノ中國問

題ニ關スル部分摘録

極秘

所謂二十一ヶ條問題ニ付テハ帝國政府ハ最初ヨリ華府會議ニ於テ其ノ討議ヲ為スコトヲ承認セズ既ニ華府會議全權ニ對スル訓令ニ其ノ意ヲ明カニシ我カ全權ニ於テモ此ノ趣旨ヲ以テ會議ニ臨ミ所謂第五項ニ關スル保留ヲ拋棄シ南滿洲及東部内蒙古ニ於ケル鐵道借款並ニ課稅担保ノ借款ヲ國際財業團ニ開放シ且ツ南滿洲ニ於ケル政治財政軍事警察ノ顧問教官ニ關スル優先權ヲ拋棄シタル外日支交渉ノ結果成立シタル條約其他ニ付テハ何等其ノ變更ヲ許サザル態度ヲ執リタリ

然ルニ最近ノ風説ニ拠レバ支那側ノ一部殊ニ旧國會議員中

五 大正四年五月日中兩國間締結條約ノ効力問題ニ關スル件

其ノ年来ノ主張タル日支交渉無効説ヲ貫徹スル為露西亞ニ對スル關東州租借期限満了期タル明一九二三年ヲ期シ日本ニ對シ關東州ノ還附ヲ請求セムトスルノ議アリトノコトナリ其ノ真偽素ヨリ明確ナラザルノミナラズ外國側殊ニ米國ニ於テハ現政府ノ存続スル限り仮令支那政府ヨリ右ノ如キ提議ヲ為スモ之ヲ支援スベシトハ思考セラレザルモ顧維鈞ガ最近財政委員會長トシテ北京ニ居据ハル模様ニ付或ハ同人等ニ於テ他同志ト相策応シ内外ニ對シ何等画策ヲ廻ラスコトナキヲ保セズ何レニスルモ之ニ對シ我方ニ於テモ相當考慮ヲ遂ゲ置クハ無用ニ非ズト認メラルル処我對支政策ハ公正寛容日支融和ヲ以テ其ノ大方針トナシ特ニ華府會議以來着々其ノ實現ヲ期シ現ニ山東問題ニ付最モ能ク之ヲ表示シツツアル次第ナルモ關東州租借地期限問題ノ如キ此上二十一ヶ條問題ニ關シ讓歩ノ余地ナキハ言ヲ俟タザル所ニシテ從テ今日ヨリ我ニ於テ斷然タル態度ヲ持シ苟モ支那側ニ對シテ此辺ノ希望ヲ繋ガシメ又ハ虚偽ニ乘ゼシメザル様措置スルコト差向必要ナリト思考ス

一六〇